

## 教育の課程と方法（教職専門科目）

### 「教育の課程と方法」の評価と改善

教育臨床・富田英司

#### 授業情報

授業名：教育の課程と方法

開講時期：平成 30 年前期

時間割番号：120133

対象学生：初等・特支

担当：富田英司

受講者数：129（旧課程 7 名）

DP 対応調査回答者数：132

う、2：ある程度そう思う、3：あまりそう思わない、4：授業の目標・内容がこの DP とは無関係である、であった。

表：D P 対応調査の結果

	1	2	3	4
DP1:知識・理解	34	87	11	0
DP2:技能	31	84	16	1
DP3:思考・判断・表現	33	89	9	1
DP4:態度	42	80	9	1

#### 授業概要

教育課程は教育の目的に応じて諸活動を配置する計画のことであり、教育方法は学習内容を教える方法に関するものであり、あらゆる科目の教え方の原理を扱う。この授業ではこれらについて、理論と関連づけながら具体的な教え方と実際の方法を学ぶ。今回の報告は、この授業の評価と改善に関するものである。

特にこの授業で育成を狙ったディプロマポリシーの項目としては、「思考・判断・表現」

（教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。）を想定した。

#### DP 対応調査の結果

##### ①評定値

DP 1-4 の項目に沿った授業かどうかに関する受講生の評定は以下の表のとおりであった。なお、評定値の凡例は 1：とてもそう思

##### ②時間外学習等の状況

- 時間外学習（課題）：週平均 1.2 時間
- 時間外学習（課題外）：週平均 0.3 時間
- 自主的に読んだ文献数：平均 0.4
- 授業をきっかけとした活動：平均 0.1

##### ③自由記述

「この授業で扱ってほしいと思った内容がもしあれば教えてください。来年度の授業づくりの参考にしたいと思います。」という質問をしたところ、以下の回答を得た（全回答）。

- 保育案について
- 特にない。小テストの復習ができないのが不満でした。
- 小テストは紙にしてください。
- 指導法
- 今回のような授業でいいと思う。
- 教科ごとのルーブリック作成時のポイントについて
- 学校と地域の関わり

- 学びのある授業でした。
- グループワークと講義形式が分離していると感じたので、1 講義で両方のバランスが取れた授業だともっと積極的に活動できる授業になると思った。
- グループではなく個人での指導案作成
- ICTの活用について

#### 授業改善について

以上の結果より、以下の改善を検討中である。

- DP対応調査の結果からは、項目間でそれほど差はないものの、態度に関する回答が最も多かった。本授業では、授業やカリキュラムのデザインに関する方針や原則を学び、それを学習指導案の作成につなげるということを重視したつもりであるが、そういった思考・判断・表現に関することよりは、態度面でのことが重視されていると授業生が理解した可能性が示唆されている。この結果を踏まえて、来年度は、授業やカリキュラムのデザインを理論と技能に基づいた思考と判断の過程であることを重視したものにしたいと考えている。
- 受講生の自由記述で指摘された、講義とグループワークの分離については、最も改善を要する重要なことである。グループワークと講義の内容がどのように連動するかを丁寧に説明し、机間指導でもその点を重視していきたいと考えている。

#### 地域社会を核とした教育と研究のつながり

本授業の内容には、講義担当者が愛媛県内で助言や視察をおこなう中で見知ってきた内容やその準備の過程で深めてきた専門性をふんだんに取り入れており、地域社会の教育に寄り添っ

た内容となっていると言える。来年度の授業では、研究指導学生を中心に大学周辺で展開している放課後学習教室での実践も踏まえて、地域実践との関連をより強めていきたいと考えている。